

# 第Ⅲ章 後期基本計画

- 第1節 目標フレーム
- 第2節 基本計画の体系
- 第3節 市長の戦略政策
- 第4節 分野別計画

# 第1節 目標フレーム

計画策定の基本となる指標として、第6次江南市総合計画の計画期間である平成30年度から令和9年度における人口・財政・土地利用のフレームを次のように設定します。

## 1 人口

平成20～24年の合計特殊出生率※1.42を、令和12年に1.80、令和22年に2.07に誘導するとともに、人口流出の抑制を前提とした「人口ビジョン」※をもとに、平成30年度から令和9年度までの総人口の推移及び人口構造について見直し、将来目標人口を設定しています。

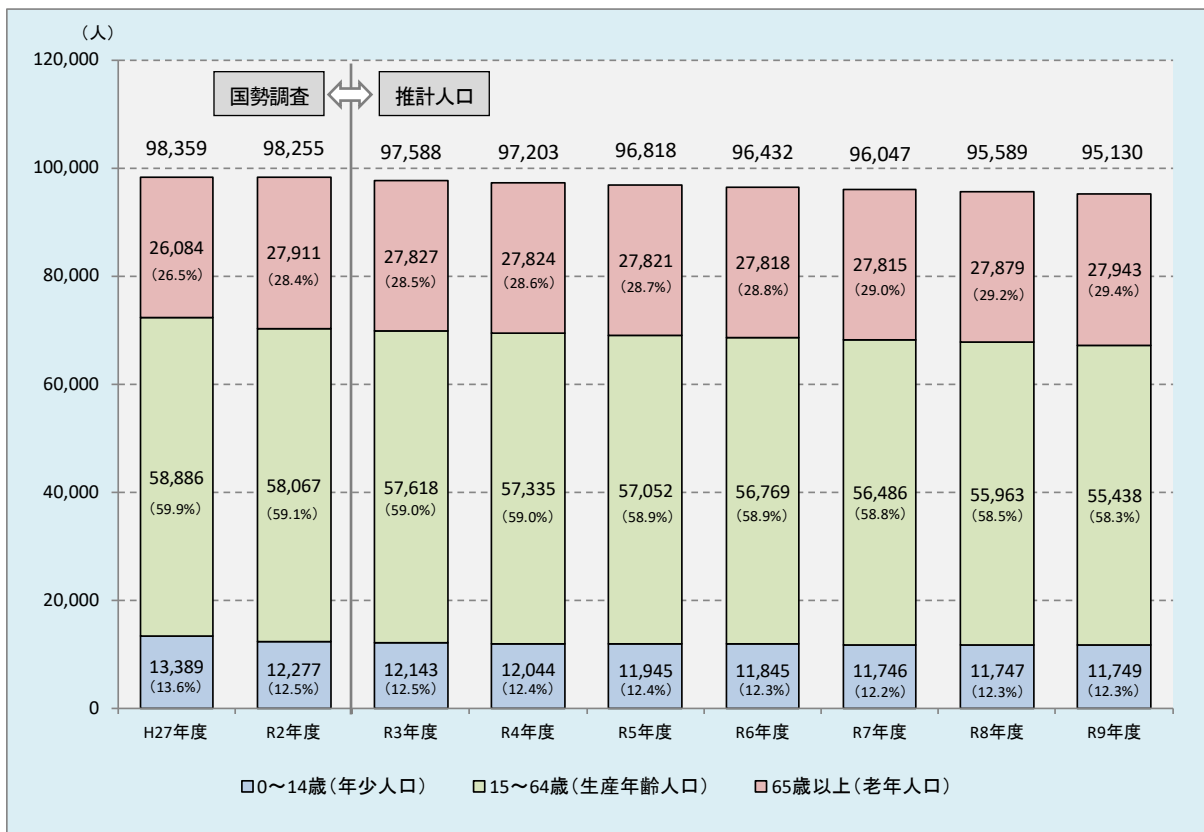
### ◆人口の見直し

「人口ビジョン」における人口推計をもとに平成27年・令和2年国勢調査結果による補正を行い、総人口及び年齢3区分別の人口を推計しました。

江南市の人口は、計画期間中、年平均0.4%程度で緩やかな減少が見込まれ、令和9年度には95,100人台にまで減少することが見込まれます。低出生率による自然減少や市外への転出などによる社会減少が見込まれることが要因として考えられます。

また、年少人口及び生産年齢人口の減少と、老年人口の増加が見込まれ、さらなる少子高齢化の進展が見込まれます。

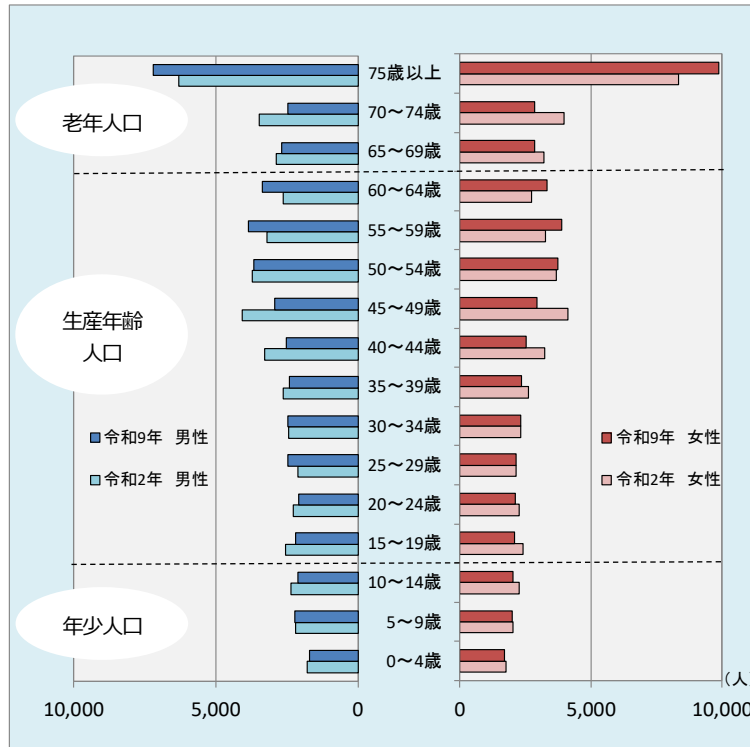
【総人口・年齢3区分別人口の見直し】



※平成27年度・令和2年度は国勢調査結果、令和3年度以降は推計人口

令和2年度と令和9年度の年齢5歳階級別人口を比較すると、現在、人口の割合が多い70～74歳（第1次ベビーブーム世代）や45～49歳（第2次ベビーブーム世代）の減少が顕著となる一方で、75歳以上人口の急激な増加が見込まれます。年少人口では少子化の傾向が見られ、生産年齢人口や老年人口では、ともにグラフのピーク年齢が上昇しており、高齢化の進展が見られます。特に、女性の高齢化率<sup>\*</sup>の上昇が顕著であり、令和9年度において、男性の高齢化率が26.7%に対して、女性が32.0%となります。

【年齢5歳階級別人口構造の見通し】



※令和2年度は国勢調査結果、令和9年度は推計人口

◆将来目標人口

人口見通しでは、今後、継続的な人口減少が見込まれますが、「総合戦略」における人口減少抑制策の実施を、「第6次総合計画」においても持続的に取り組むことにより、基本構想に掲げる市の将来像「地域とつくる多様な暮らしを選べる生活都市 ～生活・産業・文化の魅力があふれ、選ばれ続けるまち～」をめざすこととし、将来目標人口を以下のとおり設定します。

## 令和9年度目標人口 95,100人

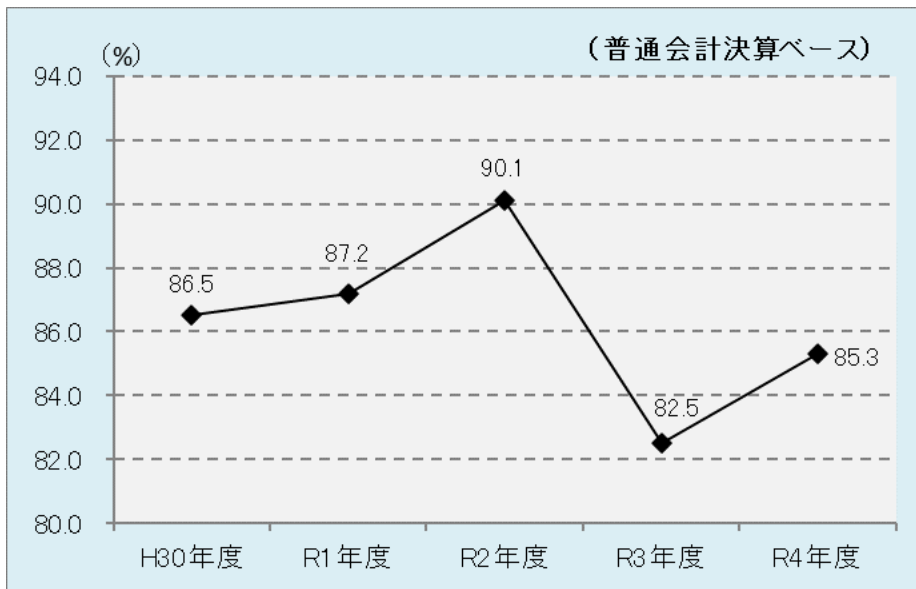
年 度	平成 27 年度 (国勢調査)	令和 2 年度 (国勢調査)	令和 9 年度	
			(H30 : 計画策定時)	(R 6 : 計画改訂時)
総人口	98,359 人	98,255 人	95,100 人	95,100 人
年少人口 (0～14 歳)	13,389 人	12,277 人	12,500 人	11,800 人
生産年齢人口 (15～64 歳)	58,801 人	58,067 人	55,800 人	55,400 人
老年人口 (65 歳以上)	26,169 人	27,911 人	26,800 人	27,900 人

## 2 財政

### ◆江南市の財政状況

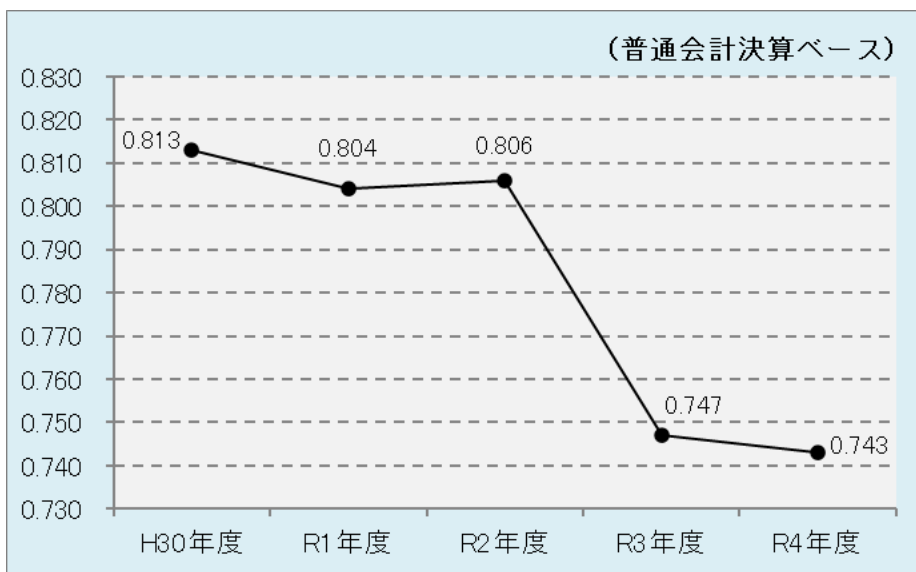
江南市は、歳入における市税などの自主財源<sup>※</sup>の割合が半分程度で、歳出では人件費、扶助費及び公債費の義務的経費<sup>※</sup>のうち、高齢者人口の増加に伴い扶助費（福祉関係経費）が増加しており、厳しい財政状況にあります。限られた財源を有効に活用し、堅実な財政運営に努めています。こうした状況は、経常収支比率<sup>※</sup>や財政力指数<sup>※</sup>などから分析することができます。

【経常収支比率の推移】



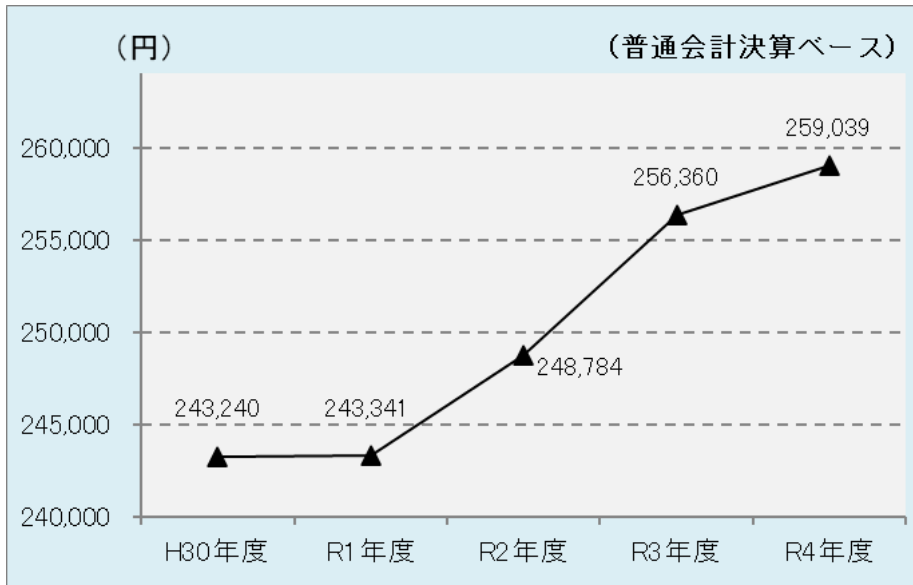
資料：財政課

【財政力指数（単年度）の推移】



資料：財政課

【人口1人当たり地方債現在高】



資料：財政課

◆財政計画

令和6年度から令和9年度までの財政状況を一般会計ベースで見通しました。

(歳入) 市税は、人口推計などを加味して推計しました。地方交付税は、市税などの動向や現状を勘案して推計しました。その他の歳入については、過去の実績の推移などを勘案して推計しました。

(歳出) 人件費は、今後の職員数を見込んで推計しました。扶助費は、少子高齢化への対応などの行政需要が年々増加することを加味して推計しました。投資的経費<sup>※</sup>は、計画期間内に見込まれる大型事業を踏まえて推計しました。その他の歳出については、過去の実績などを加味して推計しました。

(単位：百万円)

年度	6	7	8	9	
歳入総額	31,922	34,081	32,645	33,037	
自主財源	市税	13,233	13,293	13,354	13,236
	その他	2,662	2,662	2,662	2,671
依存財源 <sup>※</sup>	市債	959	3,036	1,443	1,890
	地方交付税	4,251	4,061	3,944	4,211
	その他	10,817	11,029	11,242	11,029

年度	6	7	8	9	
歳出総額	31,922	34,081	32,645	33,037	
義務的経費	人件費	6,487	6,539	6,652	6,527
	扶助費	8,217	8,688	8,898	8,887
	公債費	2,618	2,534	2,439	2,370
投資的経費	1,692	4,099	2,803	2,795	
その他経費	12,908	12,221	11,853	12,458	

令和6年度は予算見込額、令和7年度以降は計画額  
資料：財政課

◆その他経費とは 義務的経費及び投資的経費以外の経費で、物件費（旅費や備品購入費、委託料など）、維持補修費（公用・公共施設などの修繕に係る経費）、補助費（民間団体や他の地方公共団体などが行う事業に対して支出する補助金や負担金など）、繰出金（特別会計へ支出する経費）などがある。

### 3 土地利用

「地域とつくる多様な暮らしを選べる生活都市」にふさわしい、健全な都市環境の形成と都市機能の集積を実現するため、市域を6つの土地利用ゾーンに区分するとともに、江南市の骨格となり将来発展の核となる拠点と都市軸を設定し、各ゾーンの調和がとれた計画的な土地利用を進めます。

#### 『土地利用ゾーン』の区分

住宅ゾーン	安全で安心して暮らせる居住環境を形成するため、市街地整備を進めるとともに、うるおいのある快適な空間づくりを進めます。
商業ゾーン	市民生活の中心となるゾーンとして、都市機能の集積を高めるとともに、江南市のシンボルとなる景観とにぎわいを形成します。
工業ゾーン	市内における就業の場となる活力ある工業ゾーンとして、周辺環境に配慮しつつ、今後も地域経済に貢献していきます。
田園集落ゾーン	都市空間にゆとりをもたらすゾーンとして、市街化を抑制し、農地の多面的な機能を維持・活用します。
水と緑のゾーン	木曽川や五条川沿いの恵まれた水辺や緑地など身近な自然を保全し、生活にゆとりとうるおいを提供するとともに、レクリエーションの場として活用します。
暮らしと安全のゾーン	暮らしと安全のために必要な公共公益施設用地として活用します。

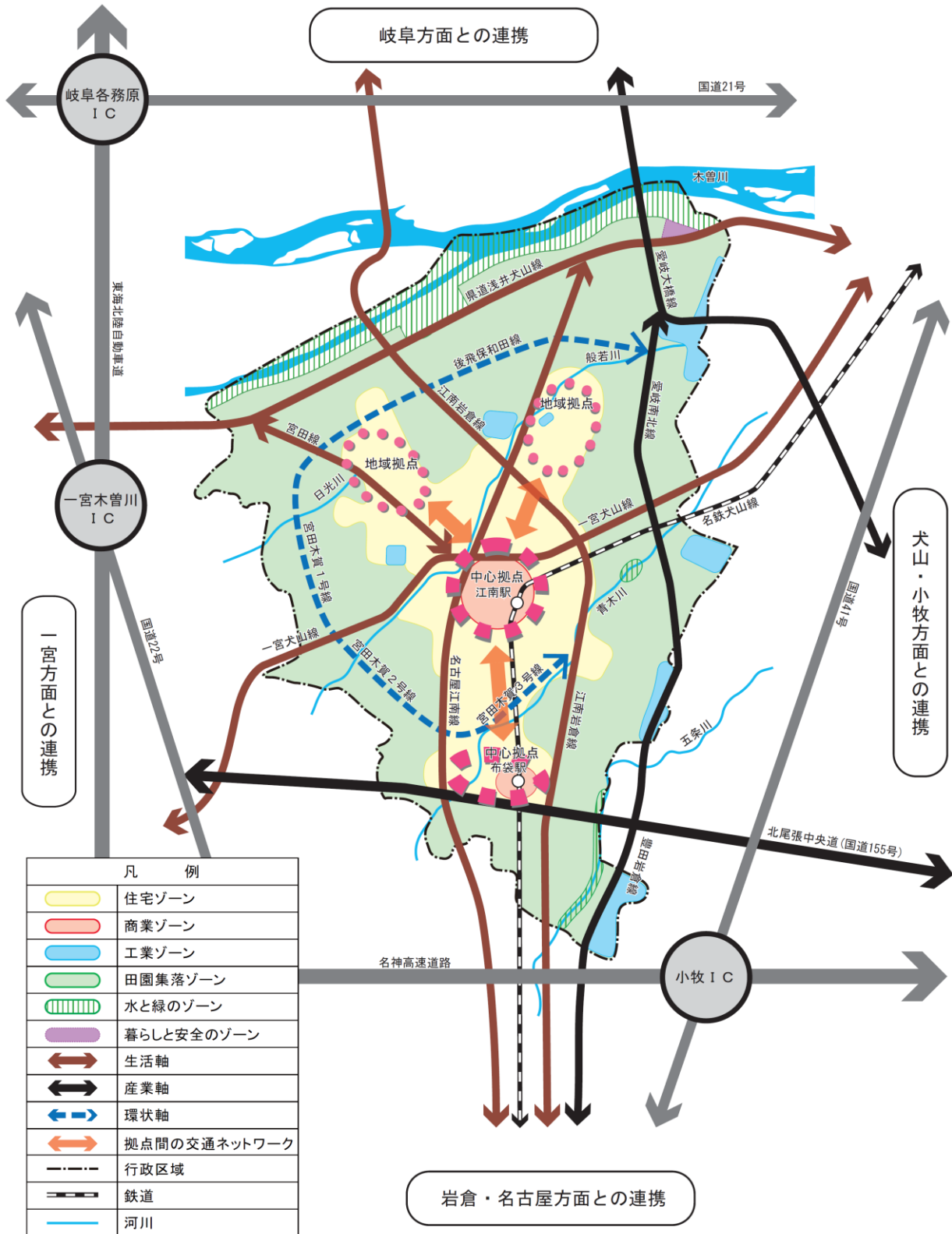
#### 『拠点』の形成

本市における主要な拠点として、通勤・通学などで人が最も集まる鉄道駅である江南駅及び布袋駅を中心とする区域を『中心拠点』、市民の健康を支える江南厚生病院～江南市スポーツプラザ周辺の区域と、観光名所や大規模住宅団地のある曼陀羅寺公園～江南団地周辺の区域を、地域においても人々が多く集まる区域として『地域拠点』と位置づけ、中心拠点－地域拠点間や、中心拠点同士を交通ネットワークで結ぶことにより、住みやすく、利便性の高いコンパクトなまちづくりをめざします。

#### 『都市軸』の形成

生活軸	通勤・通学などを支える一宮方面、犬山・小牧方面、岩倉・名古屋方面及び岐阜方面とつながる路線を生活軸として位置づけます。
産業軸	本市南部を東西方向に横断している北尾張中央道(国道155号)を、本市と一宮市、国道41号及び東名・名神高速道路の小牧インターチェンジとを結ぶ路線として、東西の産業軸と位置づけます。 また、本市東部を南北方向に横断している愛岐大橋線、愛岐南北線及び豊田岩倉線は、岐阜方面と、東名・名神高速道路の小牧インターチェンジとの結びつきが強いことから、この路線を南北の産業軸として位置づけます。
環状軸	本市の都市計画道路 <sup>※</sup> は、中心拠点から放射状に広がっていることから、その都市計画道路を有機的に結び、市街地の交通環境の向上を図ることなどを目的として、後飛保和田線、宮田木賀1～3号線を環状軸として位置づけます。

【土地利用構想図】







フラワーパーク江南